

三重県における周産期医療提供体制

日本産婦人科医会記者懇談会

2019・10・16

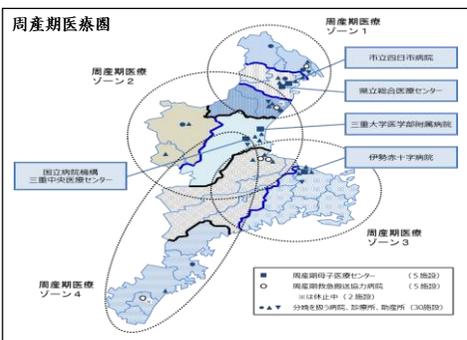
三重県産婦人科医会顧問

日本産婦人科医会遠隔医療プロジェクト委員会委員

二井 栄

三重県の周産期医療に関する現状

(1) 医療提供体制



周産期医療圏	総合周産期母子医療センター	地域周産期母子医療センター	分娩取扱施設数(病院・診療所・助産所)	NICU	MFCU
周産期医療ゾーン1	市立四日市病院	県立総合医療センター	16	21	6
周産期医療ゾーン2	三重中央医療センター	三重大学医学部附属病院	7	24	12
周産期医療ゾーン3		伊勢赤十字病院	11	12	
周産期医療ゾーン4			2		
施設数計	2	3	36	57	18

(2) 出生数・分娩数

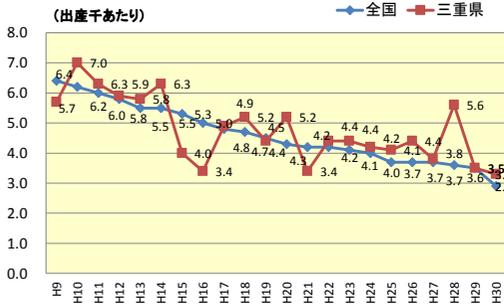
① 出生数

二次医療圏	H26	H27	H28	H29	H30
北勢	6,893	6,971	6,799	6,366	
中勢伊賀	3,260	3,338	3,004	3,067	
南勢志摩	3,186	3,249	3,023	2,890	
東紀州	388	392	376	340	
計	13,727	13,950	13,202	12,663	

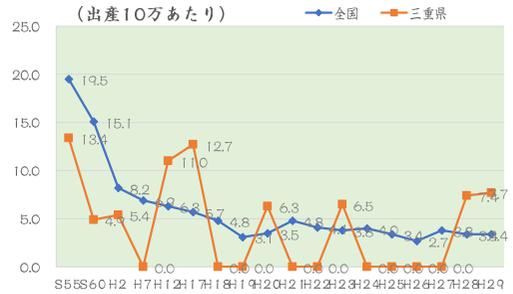
② 分娩数

二次医療圏	H26	H27	H28	H29	H30
北勢			6,717		
中勢伊賀			3,836		
南勢志摩			3,531		
東紀州			207		
計			14,291		

(3) 周産期死亡率等の推移
① 周産期死亡率



② 産婦死亡率



ワースト1位対策

医療審議会周産期医療部会を中心に対応策を検討し、当該年度から対策を実施

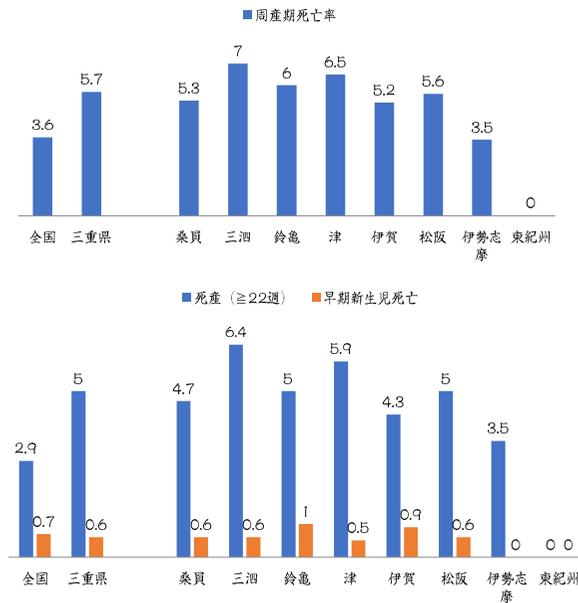
【具体例】

- ・症例検討会の開催による死産、新生児死亡症例の検証
- ・周産期医療関係者が一堂に会する「伊勢の国セミナー」の開催 など

【成果】

H29年周産期死亡率 全国ワースト23位、H30年は全国35位(上位から9位)に改善

周産期死亡率 (2016年)



三重県の周産期救急搬送

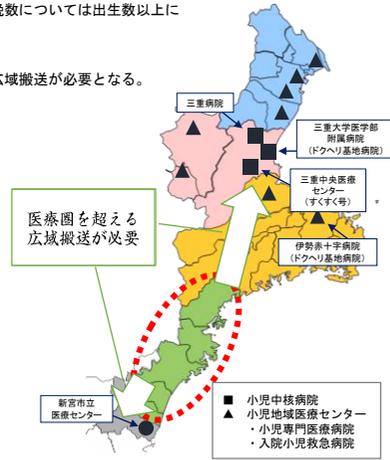
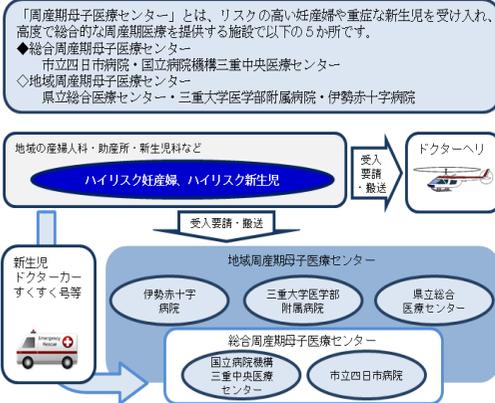
現状

- ・東紀州医療圏では、少子高齢化の進展により出生数が年々減少しており、分娩数については出生数以上に減少している。
- ・ハイリスクに対応可能な医療機関が存在しない。

課題

- ・ハイリスク出産や重症新生児仮死等の場合、中勢伊賀医療圏や和歌山県への広域搬送が必要となる。

三重県の周産期救急搬送



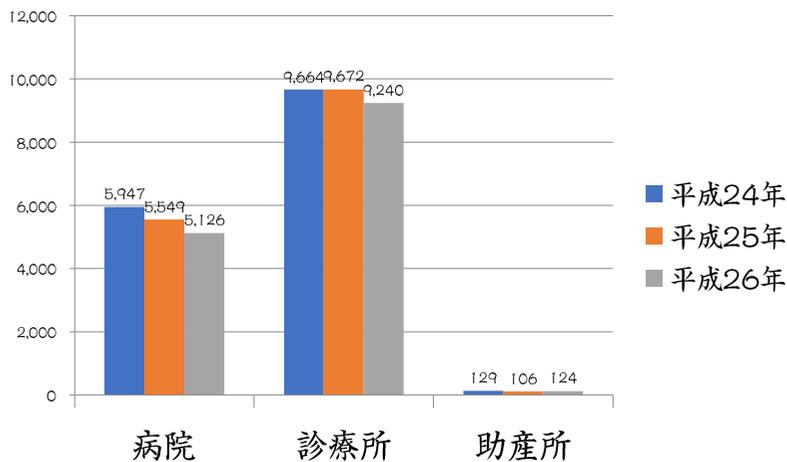
三重県ドクターヘリ搬送件数

	H25	H26	H27	H28	H29	H30
出動件数	352	378	423	395	386	320
うち母体搬送件数	4	3	1	1	1	4

分娩施設による分娩数

年	病院	診療所	合計	出生数
2014	5235 (15施設)	9454 (24施設)	14689	13727
2015	5397 (15施設)	9312 (24施設)	14709	13950
2016	6288 (15施設)	7748 (21施設)	14036	13202
2017	5829 (14施設)	7601 (22施設)	13430	12663
2018	5776 (14施設)	7550 (22施設)	13326	

分娩取扱件数



(2015年三重県調べ)

7

三重県産婦人科医会会員年齢分布 (2012.7)

50歳以上 126名 (68.1%)

年 齢	会員数	うち女性	女性医師割合
80歳以上	14	2	14%
75歳~79歳	8	2	25%
70歳~74歳	8	0	0%
65歳~69歳	22	3	14%
60歳~64歳	29	2	7%
55歳~59歳	22	2	9%
50歳~54歳	23	4	17%
45歳~49歳	13	5	38%
40歳~44歳	18	9	50%
35歳~39歳	13	7	54%
30歳~34歳	8	5	63%
25歳~29歳	7	4	57%
合 計	185	45	24%

三重県産婦人科医会会員年齢分布（2019. 8）
50歳以上（59.4%）

年 齢	会員数	うち 女性	女性医師割合
80歳以上	11	2	18%
75歳～79歳	13	1	7%
70歳～74歳	21	2	9.5%
65歳～69歳	25	2	8.6%
60歳～64歳	26	4	16%
55歳～59歳	15	3	20%
50歳～54歳	12	7	58%
45歳～49歳	21	10	48%
40歳～44歳	13	7	54%
35歳～39歳	16	6	38%
30歳～34歳	21	13	62%
25歳～29歳	8	5	63%
合 計	202	62	31%

県内就業助産師数（2006年9月）

施設分類	施設数	常 勤	非 常 勤	総 数
大 学	1	14	1	15
国 公 立	6	63	3	66
公的病院	9	66	5	71
私的病院	2	2	3	5
診 療 所	29	42	30	72
総 数	47	187	42	229

県内助産師数

人口10万人対助産師数

2000年 46位

2002年 45位

2004年 47位

2010年 297人 ユマニテク助産専門学校開校

2012年 359人 (45位)

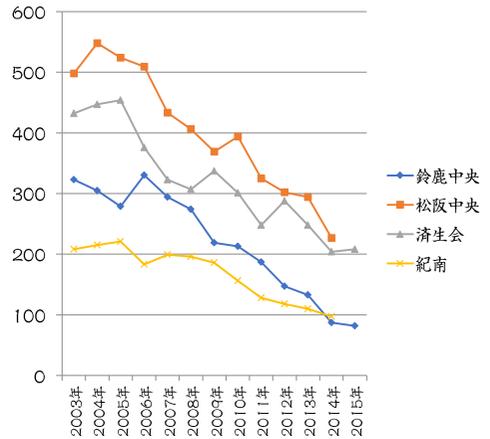
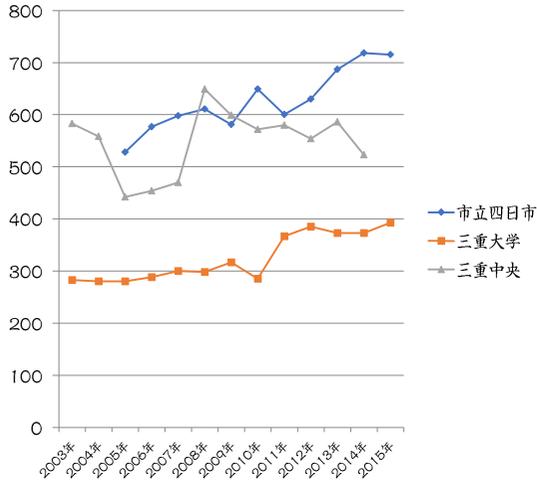
2014年 386人 (46位)

2016年 420人 (43位)

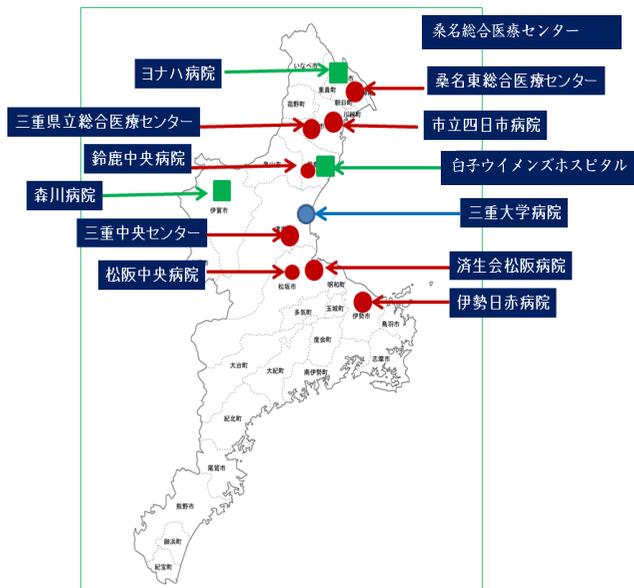
看護師 16,259人 (34位)、保健師 681人 (38位)

三重の周産期医療は1次と3次施設で対応

各病院の分娩数



三重県における産婦人科基幹病院



四日市医療圏



松阪医療圏と3つの急性期病院

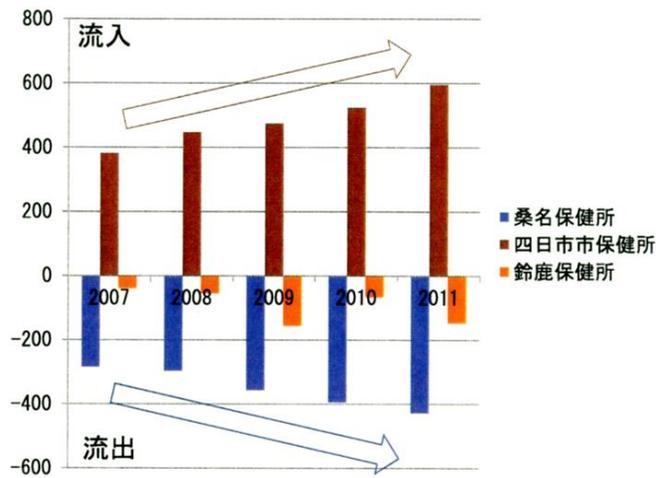
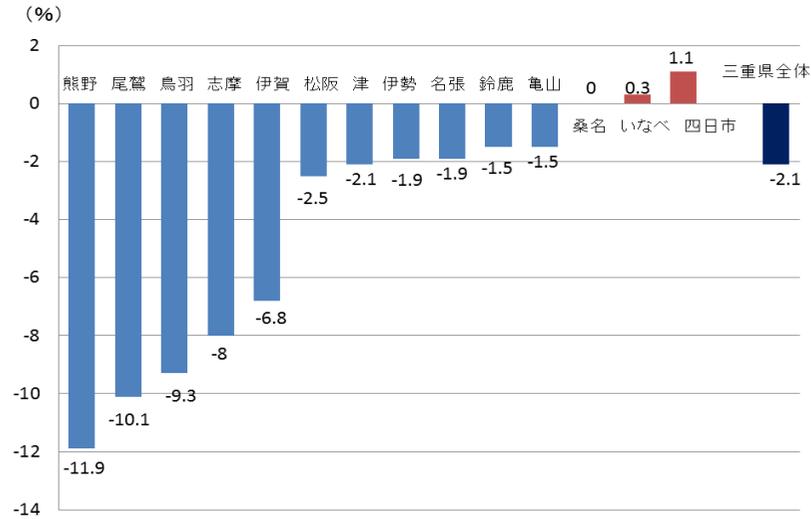


図1. 北勢保健医療圏の三つの保健所管内での分娩件数の流出入の推移

三重県の市における人口の増減率（平成22年から27年の5年間）



松阪地区の現状(2015年)

- 分娩数
 済生会 221件, 松阪中央 209件
 南産婦人科+河合産婦人科+ナオミLC
 1200~1250件
- 上記施設から他の地区(大学、三重中央、伊勢日赤)への搬送
 母体搬送 60~65件, 新生児搬送 15~20件
- 上記の1次施設から済生会への搬送
 年間数件

NICU開設後の当院への搬送状況

(2018年2月12日現在)

1/15~
NICU開設



松阪済生会病院

1件

6件

2件



南産婦人科



河合産婦人科

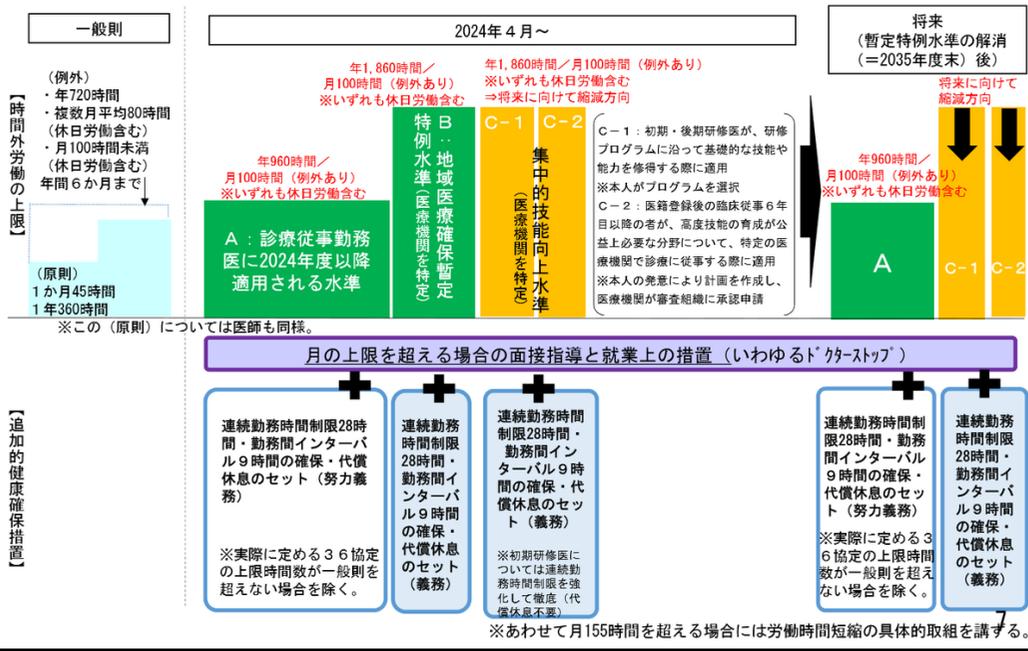


ナオミLC

厚生労働省による三位一体改革

- ①医療介護総合確保法案（2014. 9）
地域医療構想
- ②医療法・医師法の一部を改正する法律（2018. 10）
医師確保対策 医師偏在、診療科偏在等
- ③働き方改革関連法案（2019. 4より施行）
医師の働き方改革

医師の時間外労働規制について



三重大学産婦人科医師 時間外労働勤務 (他院での当直・外来業務など)

1ヶ月あたり

	平日時間	平日回数	休日時間	休日回数	合計時間	合計回数
1人あたり合計(15人)	46.9	4.4	35.7	1.6	82.6	6.0
助教、医員1人あたり 合計(13人)	54.1	5.1	41.2	1.8	95.3	6.9

1年あたり **991時間** (82.6×12) は、医師の時間外労働時間A基準の**960時間**を超え

2017年11月16日、中日新聞掲載

三重大学病院 子宮頸がん患者治療
手術支援ロボで子宮全摘成功

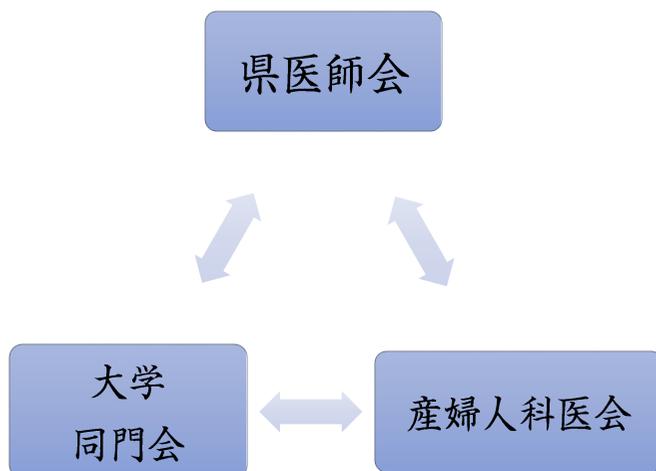
2017年12月14日 中日新聞掲載

三重大学病院で卵巣凍結
がん患者 治療後の妊娠に光

車の両輪

日本産婦人科医会と日本産婦人科学会

三重のオート三輪



まとめ

1. 三重県の周産期医療提供体制は4つのゾーンで行っている
2. 2016年、三重県の周産期死亡率は全国ワースト1となった
母体内胎児死亡の増加と分娩施設の機能分化の不備が原因
3. 産婦人科医の高齢化と産婦人科女医の増加
三重大学産婦人科学教室に池田智明教授就任により産婦人科医は増加したが、未だ十分とは言えない
4. 三重の周産期医療は1次施設と3次施設で対応している
5. 地域により新しい周産期医療の試みを行っている
四日市地区での公的病院間の医師相互交流
松阪地区での新生児医療に産婦人科医が関わる
6. 厚労省の三位一体改革により三重県の周産期医療崩壊の可能性は否定できず、
三重のオート三輪により克服できるか否かにかかっている

ご清聴ありがとうございました